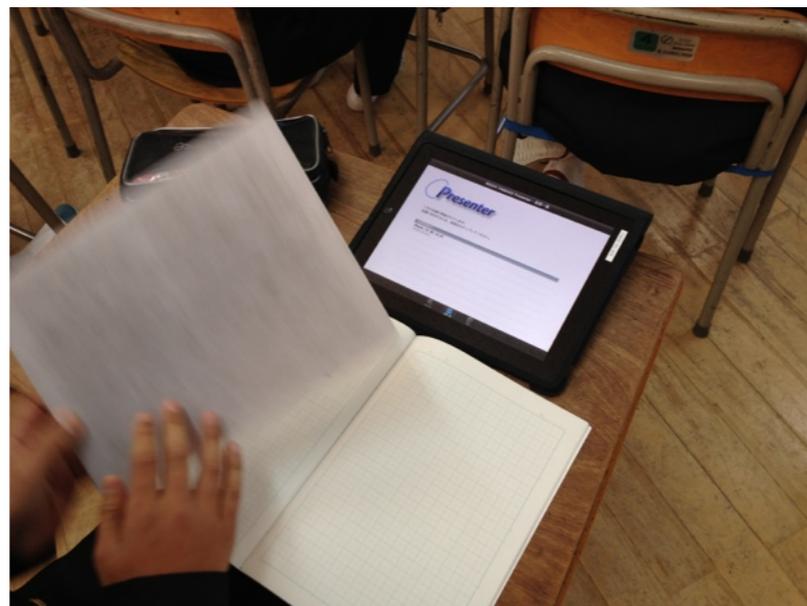


ICTWALKER

ICT活用授業



サンプル出版

1 授業でのICT活用 を検討する

ICTをどう授業で活用すればいい？
子どもの学びを支援するICTとは？

効果的なICT活用のために考えておきたいこと。

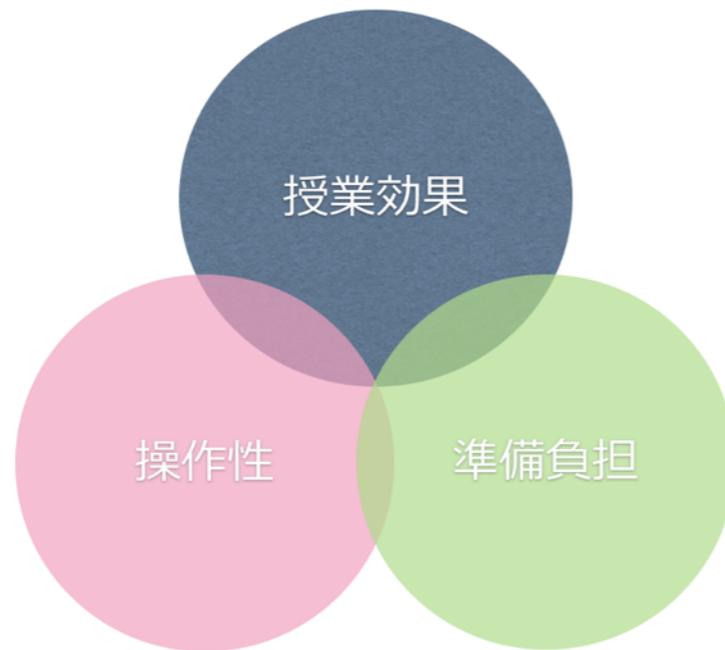


3つの視点

授業で効果的なICT活用・支援を行うには、図1の3つの視点から整理する必要がある。

- (1)授業における効果
- (2)授業における操作性
- (3)授業準備の負担

【図1】



(1)授業における効果

ICT活用を考える際に「使うことで効果を上げられるか、上げられるとすればどういう点で有効か」をしっかりと検討する必要がある。ICTは「魔法の杖」ではない。効果をはかり、狙いをもって授業に導入することが大切である。

また、(3)とも関連するが授業の質の向上には直接結びつかなくても、ICTを活用することで準備負担が軽減できるなら活用を考えた方がよい。

(2)授業における操作性

教員が操作に慣れることも大切であるが、すべての機能が無理に使う必要はなく、シンプルな操作で教員も授業に集中できることが大切。また、機器・システムの不調があっても授業を継続できるように、ICT機器に100%頼り切らない準備も必要である。

(3)授業準備の負担

ICT活用授業に取り組み始めた直後は気負うあまり準備に過大な時間・労力をかけ過ぎるケースが多い。デジタルデータは再利用が効きやすく、次年度以降自分を助けてくれるとはいえ継続して授業で使い続ける「普段着のICT活用」が重要である。

ICT活用授業

©2012 サンプル出版

本サンプルの著作権はKietsu SHIRATORIが有しています。

写真・ビデオは新見市立高尾小学校、石狩市立紅南小学校の公開授業で筆者が撮影したものです。

ICT活用授業

パソコン、電子黒板（IWB）、プロジェクタ、デジタル教材/
教科書を用いた授業のこと。ICT支援授業ともいう。

関連用語

ここに関連用語をドラッグ

索引

用語を検索

投げ込み型授業

前後の授業と関連性の薄い単発の講義のこと。外部講師を招いた授業、教育実習生の模擬授業、他校との交流授業などがこれに該当する。

通常講義では教員の講義の進め方にルールがあり、それに慣れている児童生徒との間で意思疎通が図れているのが普通だが、投げ込み型授業ではこの前提が成立しない。そのため、活動の意図を説明しながら講義を行う必要がある。

関連用語

ここに関連用語をドラッグ

索引

用語を検索